

を、一気に整備することは勿論できないが、重要な道路から重点的に、また効率的に整備を進め、後進性を一日も早く打破する必要がある。

それでも着々と：

国では昭和二十九年第一次五カ年計画、更に昭和三十三年第二次五カ年計画をたて、実施してきたが、更に昭和三十六年度を初年度とする新長期計画をたて、三十六年度から四十年まで五カ年間に二兆千億円の道路投資を決定した。この国の方策にそつた「熊本県道路整備計画」は次のようになってい

一級国道

建設省直轄で、山鹿、熊本、八代、三太郎地区に分れて、どん／＼整備が進められている。

昭和四十年までには、北は福岡県境から、南は鹿児島県境まで、全線百四十七杆の完全整備が殆んど完了する。

二級国道

六路線三百一十杆のうち、五カ年内に九十三杆の改良を完了し、現在改良済み九十一杆を合わせると全延長の六十一％が改良済となる予定。
舗装は百二十杆を完了し、現在の舗装延長四十二杆と合わせると五三・六％が舗装道路となる予定。
特に九州横断道路の一環である熊本大

分線（熊本一宮）島原宇土線（宇土一三角）及び熊本佐賀線（熊本一荒尾）が完全整備され、その他の路線も大幅な整備が推進される予定である。なお、昭和四十五年までには、二級国道の全線が殆んど整備されることになるだろう。

主要地方道

総延長七百五十一杆のうち、山鹿大津線ほか十路線八十一杆の改良、また熊本玉名線ほか十六路線の八十六杆の舗装が完成され、昭和四十年までに、全延長の三二％の改良、一八％の舗装が完了する。

なお四十五年までの目標は、改良五八・八％、舗装四二・三％の整備を計る予定。

一般地方道

交通量の特に多い路線や資源開発上重要な路線五十九杆の改良と二十杆の舗装を重点的に施行する予定である。
以上述べた事業が完成すると、大体全国平均に追いつくことになる。

橋

橋の総数二千九百七十八橋。このうち木橋が千六百一十一橋もあるが、この木橋が幹線道路に点在しているというところに問題点がある。
国庫補助の対象となる橋は、できるだけ道路整備五カ年計画に織り込むように考えているが、延長二十米以下、あるいは

は、橋面積百平方メートル以下の小さい橋は、全部県単独で永久橋に架設しなければならぬ。これが実に約十一億円かかる。しかし、現在のこの種の県単独費は約四千

第3の問題点：

道路は長く、土質は悪い

さて、道路は全部舗装されるのが理想だが、相当長期間を要する。ではどうしたらよいか。そこで現在ある道路を、最大限使いやすいものにするため、砂利道の補修ということが大切になつてくる。

県でも、いろいろ努力しているが自動車輸送のものをすこい発達につれて道路の管理は容易に追いつけない。

ひと雨降れば……

砂利道の補修延長は非常に長く、三千二百杆もあり、そのうえに全県下の殆んどが阿蘇山系の火山灰質で、土質が悪く、一度補修してもすぐ一雨で路面は破損される……、限りある予算と人では、なか／＼思うようにいかない。
道路工費一人当りの補修延長は、約十六杆にもおよび、九州各県平均の約十一杆にくらべると、一人当りの作業量が過大であることがわかる。
県ではグレーダー、十一台、トラック

■ 県内道路のメモ ■

・総延長	3,900km
・改良率	11.4%
・舗装率	4.3%
・改良と舗装を全部完了するには	約1,100億円
・橋の総数	2,978橋
・自動車のふえ方	昭和25年の7倍
・自動車台数(自動車等も含む)	45,229台(7月末日現在)

(道路課)

三十六台で機械補修につとめている。また、補修用の資材は、近年の土木事業の増加、そのうえ、砂防や発電用のダム築造のため、各河川の砂利が非常に少なくなつて、入手困難な箇所が各所にでている。
県でもその対策として、砕石機で岩石を粉砕して道路の補修に使用致しているが、なお不十分な状態であるので、各地方の道路愛護団体のご協力をお願いして道路の補修に努力しているのである。

私の作文

開拓地にも道路ができた

沢村良子

(八代郡東陽村種山中学校1年)

7月の国土建設月間には作業者の表彰がおこなわれた。これはその一位入選作文。この表彰や優良路線職員と

知事から賞状をもらう沢村良子さん

海に見える開拓地

私の家が、平山開拓地に入植して、もう五年になります。下の部落から、約三杆位です。それも山はだの土地です。ので、そこに行くまで、なみたいていではありません。

昔、水を出すためにできた小さな道。雨の日には、流水路となることです。石がでていたり、水たまりがあつたりで、人のやつと一人通れる位の道。これが、今から拓かれる開拓地へのたつた一本の道です。

この道をやつとの思いで上りつめると、戦争中乱伐され、ほうつておかれた荒れた山はだがあります。こゝが私達ほか数軒の人の生活と、生産の場所です。

こゝからのながめはすばらしく、遠く宇土半島をのぞみ、びか／＼光る八代海、その手前に青々と広がる八代平野、これが遠足や、一日二日のことならがまんもできます。又こんなよいところはあります。しかし生活する場所と思えば、道なし、電燈なし全く「なしなしづくし」です。

終戦後、あつちこつちと開拓地ができましたが、どこも成功せずだつたので、いくら土地をやるからと言つても、あまり入植する人がなかつたそうです。

これは父の話ですが、私達の家もそうなるかと思いましたが父はあんがいのんきで、「道ができるよ。肥料も、建具も、機械も、必要なものには道があるよ。」といつていました。

でも開拓地は私には分らないけれど、やはり生産をあげる義務があるようです。話では成績をあげないと特典がないと言われていました。

父や母、兄、姉、皆一生けん命土地を開き、果物を植えました。



生活につながる「道」

これもなるのは四年も五年も先きですし、少しづつ開いた土地に麦をうえても、一年はよい

が二、三年すると、地力がおち収かかすくなくなりました。「きつつかきつか」これが毎日常かれました。遠くにひろびろとみえる八代平野がうらめしいと言っていました。

建具が少しずつ、しかも多くの人の手伝いで、又地力の低くなつたので肥料が、家族の背中によつて運ばれました。

働いてもこんな気持は兄や姉の顔やことはにもでました。私もそう思いました。

父や母はだまつていました。「そのうちに道もできるよ。」と言つた父のことは、いつ実現するのでしょうか。畑作は悪くても(又鶏をかって肥料をつくりましたが(みかんはほとんど伸びました。

肥料——果実——つみ出し。今欲しいのは道です。リヤカー

だけでも通れる道。ところが昨年それができませんでした。リヤカーだけでなく、単車や三輪車まで……。私は全くゆめのようにでした。

今では、肥料が運ばれてきますので、それに従つて麦も大きく、今年はずつと地力のもに負けないとの評判です。

みかんのお嫁入りも

卵がどんどんはけます。茶を買いにくる人も多くなりました。それだけ収入が多くなり、作業も楽しくなつたと兄たちも言っています。

今まで一日がけだつた町や市場行きもへつちやらず。たつた一本の道で、失敗や不安を追いやり、楽しく働けるのです。

今日も兄が卵をのせて、姉がひまを利用して、町へ買い物に喜んでいきました。豚や鶏、果樹、茶と、どんどん仕事はひろげられていきます。そのうち、この道路を、平山名産の「みかん」が、三輪車でお嫁入りすることでしょう。また、豚が鶏が運ばれること